

第7回 交野市基本構想審議会 議事概要

【日 時】 令和4年7月4日（月）午後3時～午後5時

【場 所】 交野市役所 別館3階 中会議室

【出席者】 委員19名（欠席1名）
事務局7名

【傍聴者】 なし

【議 題】 1. 基本計画素案の審議について
2. その他

1. 開会

- 事務局による挨拶。委員20名中19名の出席確認。
- 委員長による挨拶と本日の議題の確認。

2. 議題1 基本計画素案の審議について

（事務局）

- 今回は、第6回審議会の指摘事項のうち全般事項に対する対応について説明し、個別事項については、次回の第8回審議会で本日の指摘事項とあわせてご説明したい。

【事務局から以下の内容・資料について説明】

資料1「第6回審議会における指摘事項への対応について」

（事務局）

【事務局から以下の内容・資料について説明】

資料2「政策分野（まちづくりの目標3～5）」のうち「まちづくりの目標3」

（会長）

質問、意見があればよろしくお願ひしたい。

（委員）

- 政策分野12「防災」について、一般市民の感覚からすると、災害時には避難所の設営場所等の情報が必要である。この施策4つ目にそのような非常事態時の食料や資材等の備蓄を進めますとあるが、それについての情報発信が少し足りない気がする。もし加えるならば、備蓄を進め、またその情報発信に努めますというような文言があってもよいのではないかと感じた。
- 理由としては、以前、小さな赤ちゃんのため液体ミルク備蓄が始まったという情報が一部から入ったが、場所や量の情報が一般保護者の方には届いてなかった。赤ちゃんがいる家庭ばかりではないが、どこに水があるか、毛布がどれだけあるかという情報について、不足しているのではないかと感じる場面が多くある。次以降の項目かもしれないが、ここに備蓄等について記載するのであれば、情報発信についても触れていただけたらと思った。

（会長）

- 非常に有意義な話である。総合計画の中でどこまで書けるかを考える必要はあるが、担当課でも計画していると思うため、将来も含め現状を確認いただいた後、どのような形で情報提供をするかについての表現をご検討いただければと思う。

(事務局)

- 施策の「防災・減災対策の充実」の黒丸3点目に「多様な情報発信ツールにて防災情報の発信に取り組めます」と位置付けている。その上で、市民の求めている情報がしっかり発信できているかという話だと認識している。担当課に指摘があったことを共有していきたい。

(委員)

- 今回は進捗確認指標の意見交換かと思ったが、政策分野の内容についても述べてよいか。

(会長)

- 進捗確認指標については、前回の分を含めて次回の会議でまとめて報告予定である。政策分野については、前は目標1、2を、今回の会議では3、4、5を対象としている。施策の中身について質問いただければと思う。

(委員)

- 進捗確認指標について、それぞれ取り組んでいる市民の割合が、全ての施策に挙がっているようであるが、例えば備蓄率、公共施設における防災体制、施設に対する確認等は調べて指標にならないのか、あるいは体制チェック、公共システム及び防災システムを指標として入れる必要はないのか。

(事務局)

- 前回は、数値項目を設定する定量的指標についての意見を多くいただいていると認識している。現時点での資料では、定量的な数値項目を載せてない状態だが、どのような指標がふさわしいのか、また、どう進捗管理するのかについて検討を進めている。現時点ではアンケートに絡む指標のみに見えると思うが、考え方を含めて次回に説明しようと考えておりご容赦いただきたい。

(会長)

- 見える数値、いわゆる定量的な数値に関する項目も次回の会議の段階で出てくる予定で検討している。そういう視点から本資料をご覧くださいと思う。
- 政策分野12「防災」の右ページの一番上には「防災・減災」と書いているが、左上のタイトルには、「減災」は要らないのか。5年10年くらいまでは「防災」であったが、予想していない災害が起こったり、防災も非常にお金が掛かったりして大変であるため、減災として土木事業等を進めている面もある。市として「防災・減災」の方が妥当だと思うため、ご検討いただきたい。

(副会長)

- 指標について、定量的なものは別途提示があるため、客観的評価はそちらでということだが、市民意識に関しても幾つか種類があるように思う。施策としては市民が努力すべきことと、行政がシステムを作ったり対策したりするものがある。12「防災」の指標については市民、個人の努力とか姿勢等を問うているが、14「暮らしの安全・安心」の指標では、1つ目は12と同じく個人の姿勢、2つ目は行政の取り組みに対する評価になっていると思う。2つのどちらを聞くのかをバランス良く課題に対して配置していただいたら良いと思った。
- 政策分野15「コミュニティ・市民活動」の2つ目の指標は、市民と行政の協力が不可欠という価値判断のような項目となっているため、これを聞くことには疑問を抱いた。

(会長)

- 施策の評価であるため、行政が市として実施していることに対して市民が感じることは、ほぼ現行の評価である。それに対する意向、個人で何々するという話も含めて今後こうあって欲しい等については、今後の意向とも言えるものである。現況把握と意向や希望のように尋ねる内容を複数にするのであれば仕分けが必要であると思う。必須ではないが検討いただければと思う。

- 私からもう一つ述べたい。防災・減災の箇所、交野市には海がないため、津波と高潮は要らないと思う。他にハザードマップによく出てくるのが、洪水、土砂崩れ、それから内水氾濫。高潮と津波は除くとして、12「防災」の背景中、黒丸5つ目の土砂災害や水害への対応は河川機能で対応できると思うが、内水氾濫は下水道が関係する。都市施設で記載すべき内容かもしれないが、下水道があふれてしまうと内水氾濫を起こすため、河川と両方でオーバーフローしないということが必要になる。担当課に都市整備関連で追加されているのか、こちらで記載するかを確認いただきたい。

(事務局)

- 河川、下水道といったライフライン、インフラ、土木工事といった都市整備部門に関連する部分は、都市整備関連から防災側に持ってきている。施策2「災害に強いまちづくり」の中で、災害に強いまちづくりに向けて、河川構造物の計画的な補修工事、上下水道のライフラインの耐震化、市内住宅の耐震化というような形で整理している。

(会長)

- 承知した。施策に記載しているとのことである。

(委員)

- 進捗確認指標については次回に提示とのことだが、そこに向けての提案である。見開きページを構造的に見ると「背景（現状と課題）」についての認識があり、そこから目標を導き出して、その目標を達成するための手段として、施策を各観点でまとめ、具体的な行政として取り組む項目を黒丸ごとに分解している。各施策がしっかりと狙い通り進んでいるのかを把握する指標として進捗確認指標というのが設定されていると理解している。
- 進捗確認指標は、各施策がどれくらい進んでいるのかを確認するのに分かりやすいものだと思う。具体的な黒丸の項目ごとに進捗確認指標を設定することによって、例えば目標から1、2、3の施策のグループ、そしてグループ内の具体項目に紐づけがしっかりとできていれば、各項目をどれだけ達成すれば目標に近づくかという紐づけができると思う。現在、進捗確認指標について色々な意見が出ており、どうすれば良いかを悩んでいると思うが、黒丸に整合を取ることが一番わかりやすく、かつ達成度合いを測るのに市民が一番わかりやすいと思う。

(会長)

- KPI は施策評価でもありながら、政策分野の評価という面もあり、見開きの一番下に書いてある。どっちもありだと思うが、施策ごとの評価指標ではなく、それぞれの施策に共通、もしくは複数を含む政策分野を代表するような指標を置く、というのも1つの方法である。ぼけるというご指摘は絶対出てくると思うが、精査するほど数が増え、施策の黒丸ごとにブレークダウンすると各100個ほどないと駄目となり、これをどう精査するかが非常に難しい。指摘の点は非常に理解できるが、それも含め、次回に事務局からKPIの指標をどうするかの方案について提示がある。

(委員)

- 防災・減災については、今後大きな災害であれば、交野市だけではなく他市との関わりが当然出てくると思っている。他市との連携体制の強化や仕組みをシステム化することは入れないのか。

(会長)

- 地域防災計画を作るときなどは、やはり市単独で作ることが多い。最初から横のつながりで連携して計画を作るとするのは少なく、当該市と隣接市がそれぞれ単独で作って、各計画が完成した段階で

すり合わせや連携を考えるというパターンがどうしても多くなる。これに関連して事務局としてはいかがか。

(事務局)

- 自治体間の協力に関しては、13「消防・救急」の施策3番目「応援・受援体制の強化」に、大規模災害を単独で対応するには限界があるため、相互応援体制の充実・強化について記載している。

(委員)

- 14「安全・安心」の施策「交通安全の推進」において、「幼児や小学生を対象とした交通安全教室等の開催により」と書かれている。交通安全教室は大事だが、それ以上に通学時の事故などが発生しているので、通学路の安全確保といったものを入れてはどうか。
- 15「コミュニティ・市民活動」の施策「市民活動の推進」とあり、市、市民団体、NPO 法人等の団体間の情報交換の場である市民ネットワークの登録促進と利用促進、団体同士の連携強化や協働の推進とある。自治会の参加率がなかなか上がらない、高齢化という課題も出てると以前にも述べた。やはり市民活動が地域社会で役割を持って、色々な形で協力していくことが大事ではないかと思うため、地域社会での役割強化も含めていただければと感じた。

(事務局)

- 通学路の部分は意図的に抜いたのではなく、2番目「交通安全の推進」の2つ目の黒丸に道路環境整備について記載した。通学路という言葉を入れた方が分かりやすいならば検討したい。
- 地域社会の活性化に関しては、担当課と話をしながら検討しなければならない。各地区の現状等の実態把握に取り組んで、地域活動や支援、連携等を含めたコミュニティのあり方等、多面的にどうすべきかを検討している。その中で市民団体の役割についての検討が出てくると思っているため、ご理解いただきたい。

(会長)

- コミュニティ制度と記載があるが、漠然とした記載のため、コミュニティ活動への支援、連携、協働等に変えた方が良いかと思うので、ご検討いただきたい。

(委員)

- 13「消防・救急」の施策「消防体制の充実強化」で「継続的な人材育成に取り組む」とあるが、現在、消防は定員割れが続いており継続的な人材確保と育成も明確に記載した方が良いと思う。

(会長)

- 現在、消防と病院は、広域医療や広域防災で統合されていることもある。地域連携が大切な状況となるかと思うためご検討いただきたい。

(委員)

- 14「暮らしの安全・安心」の施策1に「防犯対策の推進」とあり、「安全な交通環境を確保するため、交通安全施設（カーブミラー・ガードレール）」等色々あるが、交野市は頑張って防犯カメラを付けており、維持・更新という視点が入るならば防犯カメラも入れて欲しい。

(会長)

- 防犯カメラについては、最初から地域全体に計画的に防犯カメラを付けて安全をアピールする場合もある。個人情報の保護との兼ね合いもあるが、犯罪抑止力はあると思えるため、防犯灯やカメラについてご確認をお願いしたい。
- 続いては次の議題に進みたい。

(事務局)

【事務局から以下の内容・資料について説明】

資料2「政策分野（まちづくりの目標3～5）」のうち「まちづくりの目標4」

(委員)

- 施策分野 20「道路・公共交通」について、前回の市民意識調査で見ると、生活環境に次いで、公共交通は2番目に関心の高い項目である。気になる点として、ここに挙がっている施策は、1年から2年くらいのスパンで行う内容であると感じる。この基本計画は4～5年がスパンであり、公共交通は鉄道とバスもあるが、もっと交野市全域を視野に入れた、公共交通以外の移動手段も含めて、交通体系をどうしていくのかに触れていく必要があるのではないかと。
- 例えば、ある自治体ではCO2削減も含めて車の依存度を下げするために、自転車の交通量を10年で24%から30%に上げるという具体的な例を挙げている。乗り捨てができるシェアサイクルや電動アシスト自転車の拠点を市内にたくさん作って、マイカー以外でも交通のネットワークを作っていくという取り組みもある。
- 交野市で社会福祉協議会が行う取り組みとして、いわゆる障がい者や高齢者の人をボランティアがマイカーで送り届けるというようなことも実施している。もっと挙げれば、大阪市の一部ではオンデマンドバスが既に走っている。報道でも出ているが、自動運転もレベル4がほぼできるようになっている。もう実証実験を行っているが、恐らく4～5年のうちにはレベル5、いわゆる一般道路の無人バスのようなものも可能になる可能性がある。
- ここで言いたいことは、公共交通というとバス等を利用しようということだけではなく、例えば電動アシスト自転車、マイカー、コミュニティバスによって、電車やバスの結節点とどうやって結ぶのか、市内の足をどうネットワークするのかという視点を入れていかなければならない。市民の意識にある公共交通という意味合いはそういう意味だと思う。そのような視点を踏まえて、この4～5年を見据えたものを基本計画に入れていき、実施計画で具体的に個々の施策を取り組んでいく構造とすれば良いのではないかと思った。

(会長)

- 公共交通はまず電車、バスである。それを有効に使うということで、現在、府内では半分ほどの自治体を作っている立地適正化計画では公共交通体系をしっかりとすることとしている。そして住む場所を限定してもう少しコンパクトなまちづくりを行っている。その中では、まずは鉄道網、そしてバス、バスがなければコミュニティバス、更にデマンドバスやデマンドタクシーとなる。これらを利用しながら、CO2削減や脱炭素に近づくような形で、マイカーをやめましようとなる。
- 今、話題となった自転車の話、あとはウォーカーブルなまちづくりが今キーワードになっている。複合的に考えるところが多い中で先のような話も出てくる。やはり道路と公共交通を一緒することはやぶさかではないが、もう少し市が市民、事業者と一緒にできることを書き込んだ方が良いのではないかと指摘である。
- 都市計画マスタープランでは道路交通と公共交通体系が書かれているが、交通計画には、今話していただいたような内容が記載されていると思う。都市マス以外のところでの移動する手段をまとめる必要があるのでは、という意見のためご検討いただきたい。

(委員)

- 政策分野の背景のところで「地域の公共交通による人口カバー率は約 94.5%で、市街地をほぼ網羅しています」とあるが、どうかと思った。というのは、交野市は山を開発した住宅地が4カ所あると思う。星田山手、南星台、妙見東、私市山手はもう交通難民であり、バスが不便で本数も少なく、ルートも充実していない。山の上の方に住む人がバスの停留所まで行く足がない。高齢の男性も奥さんの送り迎えなどがあるために、免許を返納せず必死に生活している。切実な問題のため計画に入れて対応いただきたい。

(委員)

- 17「産業振興・労働」について、背景のところが気になった。買い物弱者の問題で、先ほどの星田山手とか、あの辺の方々はバスの停留所にまで下りていくのも大変な状況であり、車がないと生きていけない場所が交野に幾つかある。こういう方々の困り事が全く現状と課題に記載されていない。インターネットを使ったら良いと言うかもしれないが、消費者は現物を見て買い物をしたい。買い物がある意味、健康寿命を延ばしたりする側面もある。その辺について背景に欲しいと感じた。
- もう一つは、近隣市町村との連携である。例えば、大規模小売店舗の影響として、恐らく地元の中小小売店はいわゆる量販店やショッピングセンターの店舗によって大きな影響を受けていると思う。私も立地審をやっているが、広域調整をもっと積極的にやるべきだと研究者として言っている。要は、その市町村以外に多く建てられて、結局、買い物客が流出したり、買い物弱者がいっぱい出てきたりして大変なことが起きている。そのため、もっと広域調整を視野に入れてはどうかと思った。
- 同じことは観光分野でもある。交野市は地域資源が豊かで単独でやっていける部分がたくさんあるが、広域で連携してはどうか。例えば泉州の市町村は連携して、泉州ツーリズムビューローという財団を作り協力して、関空からお客さんを素通りさせないよう取り組みを始めている。財源も限られているため、そういったことも視野に入れてはどうかと思う。総合計画に馴染まないのであれば構わないが、そのように感じたため述べさせてもらった。

(会長)

- 広域の話というのは、交通、観光、産業、大店法なども同じで、総合計画の中で書き切れるかという問題がある。最初から相談・調整して進めれば良いが、現実的には難しいと個人的には思う。大事な観点であるため、総計の中でどこまで記載できるかをご検討いただきたい。

(委員)

- 18「観光・魅力発信」の内容を見ると、年間 100 万人の観光客が訪れており、施策についてもこれからもっと呼びたいという方向が書かれているが、例えば、私は星田在住のため、妙見さんにたくさん観光に来られているのが分かる。しかし、星田駅から妙見までの間に休憩場所もコンビニもない。妙見さんは、神社の費用を使ってトイレを増やしたが、結果的にトイレだけを借りに来られる方が増えたとのことであり、例えば郵便局の方もあの近辺にトイレがないため、妙見さんを使っているとのことである。
- 観光客を呼ぶ方向ではあるが、呼んだ後の休憩場所といったものが必要なのではないか。私は先週、奈良の飛鳥へ行って来たのだが、立派な休憩場所があり、整備もきちんとされている。その中の休憩場所に地域の魅力のポスターが貼ってありパンフレットも置いてある。自販機でジュースも買えるし、トイレも整備されている。先に受入についても書かないと、観光客が増えてから困るため、受入に関しても載せていただきたいと思う。

(会長)

- 観光インフラ整備についてである。飛鳥の場合は、国営飛鳥歴史公園で休憩所自体は国施設として整備されていると思う。高松塚や石舞台、キトラ等が当たる。予算規模は違うが、観光についてそ

それぞれの自治体はどうしてもソフト面が多くなり、観光インフラに関しては担当課で自由な予算を持っていない場合が多いため、難しいとは思いますが検討いただきたい。

➤

(委員)

- 環境、観光分野の情報発信、イベント等のソフト面は非常に大事だと思うが、年間 100 万人の方が現在訪れており、そこで滞留してお金を使ってもらうには一定の投資が必要であり、基本計画には色々な選択肢を盛り込んでいただいた方が良いと思う。
- 交通も一緒であり、現状の維持継続に主眼を置いていると思うが、この5年間で大きく時代も変わる中で、いろんな次の攻め手といったことが可能性として出てくる。未来を少し予測しながら基本計画の中で盛り込んでいただく方が良いと思う。

(会長)

- 担当課で、なかなか予算が付かない中、4年先、12年先を記載することが難しいことはお分かりの通りである。といっても将来像を見据えるのは、基本構想や基本計画の中では記載できないことはないと思う。しかし、記載するとなるとやる必要があるため、どこまで責任を持って記載していくか。検討なのか、取り組むのか、実施するのかで大きく違う。
- 書きぶりはともかく、新たな交通手段の検討に入ると記載できるかどうか。将来の本市の行く末を見据えて、一度検討いただけたらと思う。

(委員)

- 政策分野の 17、18、19 に色々書いている。例えば、交野の商品の PR に取り組むとか、100 万人の観光客が訪れているが地域経済の活性化につながっていないなどである。観光振興を支える仕組みを検討しますとか、地場産コーナーの増設や地場産品の販売や活用機会の創出、確保に取り組みますとある。しかしながら、観光客が来ても、私市の駅から星の里を通過してブランコまで行って帰ってくるだけで、途中で地場産品とか交野の特産品等の販売所は全くない。
- この素案段階では具体的に記載できないのかもしれないが、私市駅前やいきいきランドのような場所に、交野市の特産品とか特産物の販売所を作るなど、もう少し具体的なことを記載することはできないか。例えば、特産品とか特産物の販売所であれば、よく道路の近くに道の駅のような施設があるが、そこへ寄ると必ず地域の野菜やお土産、色々な特産物が一堂に会して非常に賑わっているのを良く見る。今のところ交野市には道の駅のような施設はないため、もう少し具体的な踏み込んだ記述が欲しい。

(会長)

- これから地域振興のために地場産物、地場産品を生かしたまちづくりに取り組みますは記載できるが、物販店や道の駅をここに作りますというのは、記載したら実行しなければならない。行政が土地を買って建物を建てて、管理は民間あるいは公設民営、公設公営になるかもしれない。基本構想や基本計画では、次の段階でヒントになることは記載できるのだが、具体的に記載するという話に関しては難しい。
- 道の駅は大流行りであるが、商工担当部署も簡単には作るという回答も出せないと思う。先ほど話題に出た大規模小売店舗が横にあれば成立しないため、総合的に、役所がここに作るということは、トップダウン的な意志がなければ難しいのではないかと。

(事務局)

- ご意見を参考にさせてもらいながら調整する。

(委員)

- 私は商業連合会に参加しており、10年前から道の駅の話題が非常によく出るが、市の方針が定まらず実現できていない。
- 私市の星の里いわふねでやろうとしたが、ゴミが出るからと実現が困難となった。最終的にはスポンサー、お金がない、地区と連携が取れないとなるが、そもそも交野市の中には観光課がない。本市の観光協会は、ボランティア団体であるため、観光課を作ってくださいと頼んでいるが出来ていない。自分達も吊り橋まで物を売りに行っているが実現出来ていないため、記載するのは難しいのではないかと考えている。

(会長)

- 皆で進めるには難しく、予算も掛かるという状況であるが、一度ご検討いただければと思う。

(委員)

- PRだけではなく場を作る取り組みをすると踏み込んでいただけたらありがたい。
- また、労働に関してだが、就労支援充実は挙がっているが、高齢者や女性の就労機会はまだまだであるため、就労機会の設定や確保に対しての取り組みについて表記ができないかと思う。
- 21「緑地・公園」で、ボール遊びに使用することができる、のびのびと遊べる場所が求められますとあるが、施策では公園施設の充実としか記載されていない。そこは踏み込んで、予算があるため難しいかもしれないが、確保が必要と記載してはどうか。あとは、今ある施設を何らかの形で子供たちが遊べる環境にする。子供の立場に立った公園施設を考えて確保と充実を検討いただければと思う。

(会長)

- 就労機会をここで記載するかは検討する必要がある。就労機会を増やすためには、企業の問題もあるが、例えば子育て環境であれば保育所の確保が必要という視点もある。就労をどこに記載するかは横並びで見て、他の章で記載してあれば重複になる。そして、企業に対する補助金を出して就労機会を増やすことや、外国人労働者の方は企業の話なのか生活の話なのか、全体を見てどこが良いかを検討いただきたい。
- 公園の話が出たが、ここで記載されているのはおそらく都市公園で、緑地と公園とを分けている。公園緑地とよく言うが、都市公園であることが多い。都市公園以外では、この辺りでは生駒の方、くろんど池の方まで行くと、自然公園があるが、環境省管轄である。都市公園は国土交通省管轄である。地元の児童遊園は厚生労働省管轄である。それらを全部公園と呼んでいる。
- 緑地という言葉に違和感を持たなければそのまま結構だと思うが、一度確認する必要があると思う。そして、公園の内部の休憩施設、遊具施設を公園施設と呼んでいる。公園法の中に入っているものを公園施設と呼んでいるため、担当課で使い分けていると思う。

(委員)

- 16「都市空間・住環境」で、この表題だけ都市空間という言葉が使われて、あとは全部都市環境という言葉が使われているが、意図はあるのか。

(事務局)

- 当初、政策分野のタイトルを都市空間として広い意味で設定していたが、現場との調整で都市空間という言葉が消えている状況であるため、全体の整合を見ながら適切な言葉の設定を調整したい。

(委員)

- 交野は地下水をくみ上げて水道に使っており、7割が地下水である。地下水を濾過して上水道水にしているが、濾過後に沈む汚泥が残る。その中に鉄分が入っており、それを燃やすと沖縄の守礼門等を染める柿色の染料であるベンガラの原料になる。去年は交野みどりネットで水道水を学んでベ

ンガラ染め体験の講座を行った。観光資源になると思い染めてエコバッグにしているが、汚泥は現在、年間 200 万を払って大阪湾のフェニックスに埋め立てている。それを生かして観光資源にするというシステムができないかと考えている。染料メーカーも、交野市が商標登録しないと他に取られると言っており、私たちは勝手に交野ベンガラって名前を付けている。

- まちづくりのマネジメントを市がしっかりとこれをやりますと出して欲しいと思う。子供を対象に交野の水道水、地下水、自然環境の地下水などの学習機会を設け、貴重な水であれば大切に使おうという環境教育にもなる。せっかくの産物を使うシステムができればと思っている。

(会長)

- 水道水の処理水から出た汚泥物を有機肥料にして、地元の人に配布することは河内長野で行っている。色々の合わせ技一本として、施設から出たものを地域資源として扱ってブランド化や観光資源の発掘を目指すとするのかどうか。具体的にこの計画の中で個別に記載することは難しいと思うが、ブランド化できるような資源探しは、新たな取り組みとしては大事な話である。検討いただけたらと思う。

(委員)

- 16「都市空間・住環境」の2番目の施策「住宅環境の充実」、1つ目の黒丸「少子化対策の一環として子育て世代の移住・定住を促進するため」とあり、2行目に「住宅取得支援等に取り組みます」とあるが、子育て世代の移住・定住は非常に理解できるが、その前の少子化対策の一環として、と言われると疑問に思う。左側の背景の部分に少子化に関する文言が出てきていない。子育て世代のためになると理解できるが、少子化対策という取って付けたような感じがする。この少子化対策の一環としてあえて入れた経緯があれば教えて欲しい。

(事務局)

- 全体と背景の書きぶりの整合が取れずに誤解を招いていると思う。広い意味で若い新婚世帯や若い方の住宅取得を下支えすることが少子化対策の1つにもなるという言葉が残り、全体の整合が取れてないという状況だと思う。トータルの書きぶりについて見直しをする。

(委員)

- 22「上水道・下水道」では、「安全でおいしい水の供給」と比較的さらっと記載されているが、交野の水は、交野の魅力として大事にしてきており、浄水場も整備して地下水を使っている。先の地域の魅力にも少し絡むと思うが、交野の水の魅力を今後とも活かしていくという雰囲気表現してはどうかと思う。

(事務局)

- 背景に入れることはできると思うため、検討したい。

(委員)

- 21「緑地・公園」について、私は妙見坂に住んでいるが、ウォーキングしている関係もあり、天野川と一体になった公園がまずは浮かんでくる。府が管轄する天野川の流域とそうでないところの落差が大きい。担当が違うといえばそれまでだが、市から府に対する連携の働きかけをやっていただきたいと思う。川も含めたこの緑地にそのようなイメージを持っており、連携の形が取れば交野というのが生きてくる。

(会長)

- 府の河川のため、イメージ的に書けないことはないと思うため検討いただきたい。河川に係る記載が「防災」に移ったため、「公園・緑地」に分散して記載するのか。河川は防災、安全・安心の道具として今は見ている。川の水については堤外地の利用の安全性の確保、生き物の確保とか自然

植生とかの確保で、自分たちの住んでいる方、堤内地では河川と一体的になってくる。30年くらい前にふるさとの河川領域という形で河川と周辺が一体になったまちを作っていきたいと言われ、多自然型の工法やホタル護岸、魚が住める魚礁ブロックを置きながら自然と河川を生かしたまちづくりを進めていきたいと思いますという時代もあった。

- 河川を治水、利水、3つ目の話として親水空間として公園等として見受けられないかということがある。枚方の方に行くと、河川は景観の一部になっているという位置付けとしている。交野市も、景観も含め河川の取り扱いをどうするかという話は、非常に大事である。市が管轄する河川は準用河川か、2級河川よりもさらに細い上流の河川であることが多い。それ以外はほとんど府管轄なのでどこまで記載できるか検討いただきたい。

(副会長)

- 20「道路・公共交通」が気になる。公共交通で移動が困難な自治体があることを踏まえると、どこを目指すのかが、指標も含めこの書き方はちょっと分かりにくいと思った。公共交通の利用促進に取り組む方向だが、これは自家用車ではなく公共交通で移動できるようにする方向なのか。文面を読むと公共交通の経営が厳しいから利用促進という流れが強く前に出ている感じがする。車がもしなくても公共交通で快適に移動ができるのを目指すことを前に出して、指標も「公共交通を利用している」といっても利用できない人は困るため、ここも「公共交通で快適に移動ができる」と感じている市民の割合等にするのが良いのではと思った。
- 指標が2つあるが、1つ目の道路環境は、車なのか、歩行なのか、自転車なのか、人によって捉え方が違うと思うが、公共交通を重視するなら歩くという指標にしても良いと思った。
- 質問だが、16「都市空間・住環境」のところで、関連する政策分野に住宅政策が入っていないが、住宅政策は、まちづくりの目標の1や2であったか。入っていないならば住宅の取得支援については住宅政策がメインだと感じる。交野市は持ち家が中心であり、それが特徴であるが、若い世代が定住するのに結婚してすぐ持ち家ではなく、賃貸に住んでから持ち家を買う人が多いので、その賃貸住宅があって、そこでコミュニティができた子供が学校に入ったりして、コミュニティができるとその近くで次に持ち家を探している傾向があると思う。若い世帯の住宅の選択肢をたくさん用意することが大事ではないかと思った。

(会長)

- 公共交通体系は工夫いただいて、主体が車か電車なのか、歩くか、歩道整備というものも含めご検討いただきたい。
- 住宅に関して、交野市は住宅マスタープランを作成していないとのことだが、現在都市計画マスタープランを作っているため、それを見ながら検討いただきたい。
- 施策的には賃貸住宅を意識して、購入時の補助という話もあったが、他市で、賃貸家計補助で5年間出ているところに私が教えている卒業生が最初そこに住んでいる。5万円で安いと言っており、そういう施策も可能ではないかと思うため、よろしく願います。
- 16「都市空間・住環境」の背景の黒丸3つ目について、歴史的な景観がありますとあるが、現状そうになっているだけで、他の項目は何々を求めますとなっている。歴史的なものがあります。だから良いのか悪いのか、続けていくのか守るのか。新しい景観は形成するとかつくり出す。古い町並みや自然は保全するとか文末を検討いただいた方が良いと思う。
- 気にしているものとして20「道路・公共交通」の背景の3つ目の黒丸がある。これも現状なので公共交通のカバー率94.5%が多いのか少ないのか評価を入れることが必要になる。全般的に文章文末をチェックいただけるとありがたい。

(委員)

- 22「上水道・下水道」の背景の2番目、施設の老朽化に伴う更新費用の増加について、今年下水道が破裂して、交野の一部で断水になったというのが記憶に新しい。施策で「安全で安定した上水路事業の推進」、「下水道の推進」が挙がっているが、その施設の更新、老朽化の更新は非常に重要な問題なので、3つ目ぐらいに具体的に施設の更新を進めるとか、計画を立てるとか、単独でその更新をどうしていくのかに関して記載いただければと思う。

(事務局)

- 先ほどの繰り返しになるが、施策12「防災」で「災害に強いまちづくり」中でライフラインの耐震化や老朽化対策を進めるという趣旨で入れており、そこで読み取っていただければと思う。

(委員)

- 防災ではなく、普通の状態で断水したと思うが。

(事務局)

- 「安全で安定した上水道事業の推進」1点目の黒丸で計画的に基幹管路の耐震化を進めるとともに、というような形の表現をしているが、踏み込んで記載ということか。

(委員)

- そうである。災害時だけではない。この経営基盤の強化の中には入りづらいかと思うが、市民目線からすると単独で扱わないと再び問題になるのではないかと感じた。

(会長)

- 耐震化によってバージョンアップしているが、もともと昭和期に作られたもので管が細いとか、さびが付いて塩ビ管に替えたり、管を広げたり、そういう工事は順繰りにやっていた中で、下水道、上水道の施策も基本的なこととして進めていると思う。記載できるのであれば、今やっていることを粛々と進めていくものであり、特に問題ないと思うため、ご検討いただきたい。

(事務局)

【事務局から以下の内容・資料について説明】

資料2「政策分野（まちづくりの目標3～5）」のうち「まちづくりの目標5」

(副会長)

- 24「自然共生・生活環境」の進捗指標だが、「生物多様性に配慮して生活している」と聞かれたら困ると思う。もっと答えやすいほうが良い。
- 指標2つ目「衛生的で快適な生活環境が保たれている」と聞かれたときに、どこをイメージするか難しい。住宅ではなく、「まちの」等にすればはっきりすると思う。
- 23「脱炭素・循環型社会」の指標については、2つとも個人の努力のような指標である。リサイクルのシステムがまだしっかりとできていないと書いているため、例えば、リサイクルのシステムができていますか、というような評価にした方が良いのではないかとと思う。

(委員)

- 24「自然共生・生活環境」の施策の黒丸2つ目「ペットを飼育する家庭が増加していることから」と狂犬病について記載されているが、「背景（現状と課題）」にペットに関する記載がなく、突然ペットの話が出てきた印象がある。狂犬病予防法に基づいた適正管理は現在も行われていると思うが、

その現状を記載するのであれば、背景にも触れた方が良い。整合性が感じられなかった点と、適正管理に取り組むだけで良いのかという印象を持った。

(会長)

- 背景のところに入れていただく方が良い。

(委員)

- 23「脱炭素・循環型社会」の目標として、二酸化炭素の排出抑制や、ごみの発生抑制については、行政の計画として目標値がはっきり出ているため、進捗確認指標として数値で具体的に設定しても良いと思った。

(会長)

- 委員より、市民アンケート指標のバランスについて話があった。要はどのような施策にするかに依存すると思う。施策で、情報発信を掲げているケースは、それを評価しようとしたら、そういうのを感じている市民の割合に紐づくだろうし、システムを作る施策であれば、どれくらい整備されているかとなると思う。施策に依存して指標が変わると思う。
- もう1点は、中身ではなくカテゴリ一部分の質問がある。資料の一番前にあるように、まちづくりの目標に基づいて政策分野が紐づいているという構造である。何カ所か少し違和感があるところがある。具体例としては、例えば「上水道・下水道」の政策分野が、「みんながつどい交流し、活力が生まれる」という目標に一番ふさわしいのかという点や、施策分野 24「自然共生」は、「みんなで自然や文化を慈しみ、次世代に引き継いでいく」にはフィットすると思うが、後半のペットやし尿処理は自然や文化に紐づくのかと感じた。全体としてどこの項目にするのがふさわしいかという見直しを行っていただければと思う。

(委員)

- 24「自然共生・生活環境」で、背景の「里山の荒廃、鳥獣被害」に関して「1自然環境の保全」で、「地域住民や関係団体等と連携し、里山の」とあるが、地域力が低下している中、こういった項目にこそ、人材の育成や確保を入れることで、就労機会等にもつながっていくと感じた。
- もう1点、25「歴史・文化財」の施策「交野の歴史文化の保存・活用」で、「市民の文化財保護への関心を高め、理解を促進します」とあるが、交野の文化や歴史に子供のときから関心を深めてもらうことが将来にわたって交野への興味や交野を愛する気持ちとして出てくると思うため、子供たちへのアプローチも含めて、記載を検討していただければありがたい。

(会長)

- 国のほうで、教育文化会館や、例えば学校教育ではない社会教育施設と学校教育施設をどうエンゲージして、文化財も含めた公共施設をどういうふうに使っていくのかもあろうかと思う。縦串・横串で子供たちの教育は安全もあれば環境もあり、たくさんある中で子どもの育成か教育か、どこに記載するのかを確認いただければと思う。逆に受け皿としての文化財や公園といったものに記載するのか両方ありだと思うが、上手く整理いただければと思う。

(委員)

- 目標5「みんなで自然や文化を慈しみ、次世代に引き継いでいくまち」に関して、去年、第二次環境基本計画作った際にジュニア委員会として中学生を募集してワークショップを行った。そこで交野の環境、これからどうなるのか考えるということがあり、計画の冊子にも載っている。そこで森林整備の雇用、森林整備、起業ということが出ていた。身近な山や川を見て交野の子供たちにとって「次世代に引き継いでいくまち」ということは、環境教育には良いことだと思つたため、その辺を考慮いただきたい。人材の確保や育てるという要素が入ったら良いと思う。第二次環境基本計画

中に資料として中学生たちの環境に対する意見の掲載があると思う。「次世代に引き継いでいくまち」は大事だと思うため、参考にさせていただければと思う。

(会長)

- 里山に関しては、アルファベットで SATOYAMA って書けば英語で通じるぐらい里山は注目されている。環境省の方で 1973 年頃にできて、そのあと里地区となり、現在は里山と呼んでいる。いわゆるエネルギー革命が起こり、化学肥料ができたこと、それから長く生活が変わってきたっていうのと、マツクイムシの影響や獣害、労働者や林業の不振、高齢になって里山に入るに入れぬ、竹藪やカシノナガクイムシによるナラ枯れなどの問題によって近隣の山が荒廃している。結局、維持管理できない世の中に来ており、人が入らなくなったため荒廃したということである。
- それらを中学生は理解していると思うが、単純に次世代とは別に、周辺環境として里山の保全が大事なのか、それとも人のコミュニティでもう 1 回、環境を整備していくことが大事なのか。環境学習でやるのか、ボランティアでやるのか、役所がやるのか、色々な整理の仕方があるが、都市近郊林の里山保全に関してはどこに記載するかということになる。
- 教育でやるのか、環境整備、里山整備でやるのかを整理する必要がある。大事な話であるため検討いただきたい。

(委員)

- 25「歴史・文化財」の施策「交野の歴史文化の保存・活用」があるが、現在、昔の家がだんだん建て替えて、そのまま壊しているところが多くなっている。交野市にまだ眠っているものは沢山あると思うため、調査や発掘といった言葉を入れていただくと、まちにもこれから何かあるということに関心を持っていただけたらと思う。

(会長)

- 発掘調査についてご検討いただけたらと思う。
- 3 つ話題が出たが、今回は脱炭素、いわゆる環境問題、それから自然に関してであった。また、歴史、文化である。分野の対応が合っていないのではという指摘があり、もしくは少し枠を広げて、どこに入れておくのが良いかという話もあった。しっかりと合っているかをご確認いただきたいということである。
- 「歴史・文化」ではなく「歴史・文化財」として「財」は入れた方が良いのか。文化財保護法の絡みで言うと入れたいような気がするが、タイトルとしては限定し過ぎている気がする。こちらでも検討いただければと思う。
- 環境、自然再生、自然等は、20 年ほど前の総合計画で一番初めに出てくる項目だったのだが、現在はだいたい人の話が大事になっている。だんだんこれらが前に来て、環境とか自然が最後に来るのも今時だと思って見ている。
- 次回審議会は、これらが精査されたものが出てくることに加え、重要な指標の話が出てくる。そろそろ決めていくという時期に来ている。本日は、3、4、5 の目標別に議論いただいた。皆さん、ご協力感謝申し上げます。

3. 議題 2 その他

- 次回は翌週に開催されることを説明。

4. 閉会

- 会長による閉会の挨拶。